

令和元年度

杉田玄白記念公立小浜病院 新改革プラン実績評価書

令和2年9月

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会

◎ はじめに

新公立病院改革プラン（以下、「新改革プラン」という。）は、平成 27 年 3 月に総務省において策定された「新公立病院改革ガイドライン」を踏まえ平成 28 年度に策定されたものである。

「杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会」は、外部有識者、住民代表者等を含む 5 名の委員で構成され、令和元年度決算を含めた、「新改革プラン」実施状況を点検・評価した。

1. 評価区分の基準

「計画・実績」「新改革プランにおける数値目標等（実績・目標）」「公立病院として今後果たすべき役割」について評価を行った。

評価は次の表のように 4 段階とし、それぞれの評価の基準は説明のとおりである。

評価	評価の基準
◎	計画、数値目標を大きく上回った
○	計画、数値目標をほぼ達成した
△	計画、数値目標をやや下回った
×	計画、数値目標を大きく下回った

2. 総合評価

事業収益は令和元年度目標額を下回り、一方の事業費用は上回って損益の目標額が達成できていない。経常収支比率等は、計画目標を下回る評価結果が多くなっている。

この状況を踏まえ、常勤医師ならびに研修医等の医師確保、特に内科医師確保を、病院長、副院長、統括診療部長が責任を持って実現させることで、診療機能を充実させると共に、全職員で役割分担を定めて、収益増加費用削減により経営指標数値目標を達成する経営改善に注力する必要がある。

予防医療につながる健診については、医師数との兼ね合いもあるが医師を確保して、受診日時を利用者が選択でき、早期発見・早期治療が可能な充実させたものにする必要がある。

併せて、地域医療構想との整合性、将来の人口減少等を踏まえた病床区分・病床数の検証、経営形態・事業形態の検討をする必要がある。

地域性も関係するが、開業医等との紹介・逆紹介の連携を更に押し進め、嶺南医療圏・若狭地域唯一の総合病院として、第一次から第三次医療まで、高度急性期から慢性期医療まで幅広い医療を提供する役割を引き続き担って行く努力をする必要がある。

I. 「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」

① 入院医療 高度急性期病床、急性期病棟、回復期病棟、慢性期病棟および精神病棟を有機的に運用する。

- ・患者数は計画を下回り、更に前年度より減少している。1日1人当たり収益は計画を上回っているが患者数により収益も計画を達成できていない。現実として医師不足、特に内科医不足があるが、収益確保の根幹である医師確保活動を更に強化し、併せて各診療科の受診状況について現状分析を行い、その対応策について責任者を決定して立案実行し目標達成を実現させる必要がある。

- ② 外来医療 主な診療科に加え比較的需要の多い特殊な科（専門外来）も開設する。
- ・診療体制の変更はなかったが、産婦人科の大幅な増加等により、患者数・収益ともに目標数値を達成しており高く評価することができる。
- ③ 救急医療 救命救急センターとして1年365日24時間すべての救急患者を受け入れ、総合的な救急医療を提供する。
- ・救急総合診療科医師を増員により8名体制として、救急患者の受入れに努めている点は評価できる。今後も体制維持に取り組んで頂きたい。
- ④ へき地医療 へき地医療拠点病院として、自らへき地医療を実施するとともに遠隔地は地元医療機関に委託して、へき地医療を確保する。
- ・地域の高齢化・過疎化により、診療回数および延患者数は減少しているが、交通手段の乏しい無医地区への巡回診療や診療所への医師派遣を続けていることは評価できる。
- ⑤ 災害医療 災害拠点病院として、当地域での災害医療を提供するとともに、災害医療派遣チームにより被災地での救護活動も実施する。
- ・災害拠点病院として、DMAT隊員増員に向けての取り組み、情報収集活動、各種訓練研修会の参加等評価できる。
- ⑥ 周産期医療 地域周産期母子医療センターとして、通常分娩等の他、ハイリスク分娩等高度な周産期医療を提供する。
- ・婦人科医師を更に1名増員させ4名体制とし、地域唯一の分娩取扱医療機関として外来機能を含め拡張充実させたことは高く評価できる。
- ⑦ 小児医療 一般小児疾患に広く対応する他、特に小児療育施設において発達障害等の治療・療育に注力する。
- ・小児科医師不足が深刻化している中、4名の医師体制で地域医療に貢献していることは評価できる。併せて、休日

の小児救急医療、嶺南地域の小児療育医療への取り組みも評価できる。

⑧ 5 疾病への対応 がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病については、質の高い医療を提供し、極めて高度で特殊な疾患はより高次の病院へ円滑に紹介する。

精神医療については、認知症への対応を強化する。

- ・福井大学病院や京都大学病院と連携し、5 疾病への適切な対応は評価できる。併せて、精神医療へのチーム活動（精神科リエゾン）の取り組みも評価するが、より充実させることを要望する。

⑨ 感染症への対応 結核病床、感染症病床を維持し、一般的な感染症の他、新型インフルエンザ等の新型ウイルス疾患にも対応する。

- ・病床利用率は低くなっているが、結核病床・感染症病床を維持し、嶺南地域の感染症医療を担っていることは評価できる。

⑩ 健診業務 健診体制の整備をはかり、病気の予防、早期発見に努める。

- ・医師数との兼ね合いもあり受診者数が減少している。携わる医師を確保し、付加価値を含む必要性和内容を分かり易く説明したパンフレット等を作成する積極的なPR活動に取り組む必要がある。

⑪ 研修機能 職員教育に尽力し、職員の資質向上に努める。

- ・研修医や看護師をはじめとする職員教育に尽力し、職員の資質向上に努めていることは評価できる。また地域への医療情報発信の取り組みも評価できる。研修医が研修終了後に定着を希望するような方策を検討し、取り組む必要がある。

⑫ 医療従事者の養成・確保 看護師の養成・確保。

- ・併設の公立若狭高等看護学院との連携等により、看護師養成および確保に努めていることは評価できる。より多くの卒業生、また他の看護学校・看護大学の卒業生、潜在看護師の確保に努める必要がある。

⑬ 地域包括ケアシステム 地域の医療機関および介護施設等との連携を推進する。

- ・地域性も関係するが、紹介率・逆紹介率とも向上させるよう、連携診療所を紹介するパンフレットや地図の作成、診療所を訪問するなど営業活動に努める必要がある。

⑭ 在宅医療 訪問看護・訪問診療の開始、訪問看護ステーションの設置。

- ・人的要因により在宅医療への取り組みが進んでいないが、在宅医療は需要があると考えられる。実施に向け、具体的な方策を策定する必要がある。

⑮ 地域連携クリティカルパス 福井脳卒中連携協議会に参加し、パスを利用しての県内病院・診療所と相互の紹介・逆紹介を行っていく。

- ・脳卒中連携パスの取り組みは評価できる。今後は「がん」等、他のパスの導入実施を検討する必要がある。

⑯ 地域貢献 安心して子供を産み育てられるよう小児・周産期医療を維持・強化する。

- ・地方の医療機関で医師不足が深刻化している中、産婦人科医師、小児科医師とも4名体制を構築したことは高く評価できる。

II. 「経費削減・抑制対策」

① 給与費の抑制

人件費に見合う収益を見込める職種以外は基本増員しない。

業務の見直しと効率化により超過勤務手当を削減する。

- ・前年度より、職員数は職種での増員があったが全体としては微減となっている。超過勤務手当は微増し、勤勉手当の支給抑制もあったが給与費は増額となり、医業収益に比べ給与費の伸びが上回ったため、対医業収益比率は上昇している。

超過勤務手当は、労働時間数の合理的な管理方法を用い、時間外勤務要因を調査して削減に取り組む必要がある。給与費は雇用形態や業務の見直しを図り、業務の効率化および労働時間数の合理的な管理による抑制に努める必要がある。

② 経費の削減

薬品費は、値引き交渉を強化する。

材料費は、「診療材料検討委員会」の組織と権限を強化し、材料の適正使用と節減に努める。

経費は、医療機器等の保守契約の見直し、委託費・光熱水費の削減を図る。

- ・薬品費や診療材料費については、患者数、診療内容や医療安全から一概に判断できない面もあるが、価格交渉、採用品の見直し等の取り組みを続けていることは評価できる。引き続き価格交渉に努める必要がある。

経費は、修繕費、医師派遣、改元対応や未収金貸倒引当等により増額となっているが、保守等の契約内容を見直し、回収不能未収金発生抑制等、職員一丸となって削減に向け取り組む必要がある。

Ⅲ. 「収入増加・確保対策」

① 診療報酬の査定、請求漏れを減少させる。

- ・レセプトチェックシステム導入等による、査定・請求漏れ対策は評価できる。審査機関査定基準によるところもあるが、査定・請求漏れ発生部門を中心に対策責任者の下、事務職員だけでなく診療部や看護部等他職種も関与する査定額削減に引き続き取り組む必要がある。

② 人間ドック等の健診収益増加を図る。

- ・受診者数が減少していることを受け、携わる医師を確保して、受診による付加価値を含む利用者向けパンフレット作成等の積極的なPR活動に努める必要がある。

③ 病棟稼働率増による入院収益確保。

- ・病棟稼働率が目標数値を下回った主要な原因は医師不足と考えられるが、医師確保の取り組みだけでなく、他の原因も調査改善し、稼働率を向上させ収益確保に努める必要がある。

④ 紹介入院患者を確保するため、開業医等との連携を強化する。

- ・地域性も関係するが、開業医等との紹介・逆紹介の連携を更に押し進め、患者向けの連携診療所紹介パンフレットや地図の作成、診療所を訪問する営業活動に努める必要がある。

新改革プラン数値目標に対する実績評価

(単位：百万円)

杉田玄白記念公立小浜病院		平成30年度 決算	令和元年度 プラン(A)	令和元年度 決算(B)	決算-プラン (B) - (A)
収益的 収 支	病院事業収益・・・(a)	7,922	8,108	7,973	▲ 135
	うち、外来収益	2,071	1,920	2,101	181
	うち、入院収益	4,447	4,744	4,407	▲ 337
	うち、医業外収益	972	965	1,013	48
	病院事業費用・・・(b)	8,001	8,028	8,037	9
	うち、給与費	3,757	3,986	3,799	▲ 187
	うち、材料費	1,440	1,386	1,432	46
	うち、経費	846	928	887	▲ 41
	うち、減価償却費	616	603	610	7
	純損益・・・(c) = (a) - (b)	▲ 79	80	▲ 64	▲ 144
資本的収支(4条予算対応)		▲ 590	▲ 622	▲ 694	▲ 72
累積欠損金		1,995	1,835	2,059	224

財務に係る数値目標	平成30年度 決算	令和元年度 プラン (A)	令和元年度 決算 (B)	決算－プラン (B)－(A)	自己評価	委員会評価
経常収支比率 (%)	99.0	101.0	99.2	▲ 1.8	×	×
経常収支比率 (減価償却費を除く) (%)	107.3	109.2	107.4	▲ 1.8	×	×
医業収支比率 (%)	93.0	92.8	92.9	0.1	○	△
職員給与費対医業収益比率 (%)	54.1	55.8	54.6	▲ 1.2	○	△
病床利用率 (一般) (%)	78.9	86.7	76.5	▲ 10.2	×	×
病床利用率 (療養) (%)	91.6	96.0	81.4	▲ 14.6	×	×
病床利用率 (精神) (%)	80.7	83.0	80.9	▲ 2.1	×	×
外来患者数 (1日平均) (人)	802.1	790.0	826.5	36.5	◎	◎

杉田玄白記念公立小浜病院 新改革プランに対する令和元年度実績評価シート

地域医療構想を踏まえた役割の明確化

嶺南医療圏・若狭地域唯一の総合病院として、第一次から第三次医療までを担い、高度急性期医療から慢性期医療まで幅広い医療を提供する。							
役割と計画	実 績			進捗の判断	自己評価	委員会評価	
① 入院医療 高度急性期病床、急性期病床、回復期病床、慢性期病床および精神病棟を有機的に運用する。		平成29年度	平成30年度	令和元年度	耳鼻科の医師1名採用があったが、患者および収益確保の根幹である内科の医師4名減員、外科の医師1名減員および在院日数短縮があり、一般病床・療養病床とも計画延患者数を達成出来ず、1日1人当たり収益は計画を上回ったが、収益も計画達成とならなかった。	×	×
	入院延患者数	135,505人	129,329人	127,351人			
	1日平均入院患者数	371人	354人	348人			
	入院収益	4,345,328千円	4,447,097千円	4,407,488千円			
	1日1人当たり入院収益	32,068円	34,386円	34,609円			
	一般病棟利用率	89.6%	78.9%	76.5%			
	療養病棟利用率	74.9%	91.6%	81.4%			
	精神病棟利用率	81.8%	80.7%	80.9%			
② 外来医療 主な診療科に加え比較的需要の多い特殊な科（専門外来）も開設する。		平成29年度	平成30年度	令和元年度	患者数は、診療体制の変更はなかったが、上半期の全科処方日数制限、産婦人科数の大幅な増加があり、他科の減少はあったものの計画を上回った。1日1人当たり収益は計画を上回り、結果収益においても計画を上回ることが出来た。	◎	◎
	外来延患者数	191,848人	194,919人	197,533人			
	1日平均外来患者数	790人	802人	826人			
	外来収益	1,930,636千円	2,071,111千円	2,100,559千円			
	1日1人当たり外来収益	10,063円	10,625円	10,634円			

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																												
<p>③ 救急医療</p> <p>救命救急センターとして1年365日24時間すべての救急患者を受け入れ、総合的な救急医療を提供する。</p>	<p style="text-align: right;">(単位:人)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>13,892</td> <td>13,917</td> <td>14,377</td> </tr> <tr> <td>1日平均救急患者数</td> <td>38.1</td> <td>38.1</td> <td>39.4</td> </tr> <tr> <td>救急車搬送数</td> <td>1,976</td> <td>2,057</td> <td>1,870</td> </tr> </tbody> </table>		平成29年度	平成30年度	令和元年度	救急患者数	13,892	13,917	14,377	1日平均救急患者数	38.1	38.1	39.4	救急車搬送数	1,976	2,057	1,870	<p>①平成29年度、30年度は救急総合診療科医師が6名体制、平成31年4月からは8名体制となり、救急患者をスムーズに受け入れることができた。</p> <p>②平成30年4月から循環器内科医師が4名となり、急性心筋梗塞等の患者をスムーズに受け入れ可能となった。平成31年4月に2名減となって以降も、緊急時の体制を整え、受け入れを行っている。</p>	○	○												
	平成29年度	平成30年度	令和元年度																													
救急患者数	13,892	13,917	14,377																													
1日平均救急患者数	38.1	38.1	39.4																													
救急車搬送数	1,976	2,057	1,870																													
<p>④ へき地医療</p> <p>へき地医療拠点病院として、自らへき地医療を実施するとともに遠隔地は地元医療機関に委託して、へき地医療を確保する。</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療回数</td> <td>120回</td> <td>115回</td> <td>107回</td> </tr> <tr> <td>延患者数</td> <td>693人</td> <td>676人</td> <td>577人</td> </tr> <tr> <td>1回平均患者数</td> <td>5.7人</td> <td>5.9人</td> <td>5.4人</td> </tr> </tbody> </table>		平成29年度	平成30年度	令和元年度	診療回数	120回	115回	107回	延患者数	693人	676人	577人	1回平均患者数	5.7人	5.9人	5.4人	<p>①へき地医療拠点病院として、無医地区への巡回診療を担当している。しかしながら地域の過疎化等により受診者は減少してきている。巡回診療は、堅海・根来・宮川・日引および三方診療所へ委託している西浦の計5地区となり、河内・奥杉山・音海・上瀬の4地区は休止となっている。交通手段の乏しい地区への定期的な診療は、地域医療に大きく貢献している。</p> <p>②名田庄診療所の要請により医師を2回派遣している。</p>	○	○												
	平成29年度	平成30年度	令和元年度																													
診療回数	120回	115回	107回																													
延患者数	693人	676人	577人																													
1回平均患者数	5.7人	5.9人	5.4人																													
<p>⑤ 災害医療</p> <p>災害拠点病院として、当地域での災害医療を提供するとともに、災害医療派遣チームにより被災地での救護活動も実施する。</p>	<p style="text-align: center;">活動記録</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>日</th> <th>研修名</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>18</td> <td>山形県沖新潟県山形県地震</td> <td>院内待機・情報収集などを実施→東北ブロックのDMATに派遣要請</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>27</td> <td>ホスピタルMIMMS研修(敦賀市)</td> <td>医師1名、看護師長3名、学院事務長が受講</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>28</td> <td>1 Day MIMMS研修(敦賀市)</td> <td>医師1名、看護師2名が受講</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>22~23</td> <td>技能維持研修(愛知県名古屋市)</td> <td>受講7名</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>1</td> <td>福井県総合防災訓練図上訓練(福井市)</td> <td>タスク1名派遣</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>2</td> <td>福井県総合防災訓練および緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練(大野市・勝山市)</td> <td>1隊(6名)が参加</td> </tr> </tbody> </table>	月	日	研修名	参加者	6	18	山形県沖新潟県山形県地震	院内待機・情報収集などを実施→東北ブロックのDMATに派遣要請	7	27	ホスピタルMIMMS研修(敦賀市)	医師1名、看護師長3名、学院事務長が受講	7	28	1 Day MIMMS研修(敦賀市)	医師1名、看護師2名が受講	9	22~23	技能維持研修(愛知県名古屋市)	受講7名	11	1	福井県総合防災訓練図上訓練(福井市)	タスク1名派遣	11	2	福井県総合防災訓練および緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練(大野市・勝山市)	1隊(6名)が参加	<p>令和2年3月31日現在の日本DMAT認定隊員数は、医師4名(前年比0名、うち統括DMAT有資格者3名前年比0名)、看護師10名(前年比0名、うちタスク登録者2名前年比0名)、業務調整員5名(前年比0名)の合計19名。(前年比0名)</p> <p>現在4チーム分の人数であるが、有事の際に迅速に対応する為、また職員の異動退職等による隊員数の減少を防ぎチーム数を維持する為、新規隊員養成研修受講について募集を行っていたが、隊員数を増やすことは出来なかった。新たな人材育成の為に継続して募集を行う。</p> <p>福井県主催の防災訓練に参加し、地域の医療機関と協働して災害対応に活かせることが出来た。(DMAT…医師・看護師・医療職及び事務職員で構成され、大規模災害等が発生した事故などの現場に、急性期に活動できる機動性を持った専門的な訓練を受けた医療チーム。)</p>	○	○
月	日	研修名	参加者																													
6	18	山形県沖新潟県山形県地震	院内待機・情報収集などを実施→東北ブロックのDMATに派遣要請																													
7	27	ホスピタルMIMMS研修(敦賀市)	医師1名、看護師長3名、学院事務長が受講																													
7	28	1 Day MIMMS研修(敦賀市)	医師1名、看護師2名が受講																													
9	22~23	技能維持研修(愛知県名古屋市)	受講7名																													
11	1	福井県総合防災訓練図上訓練(福井市)	タスク1名派遣																													
11	2	福井県総合防災訓練および緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練(大野市・勝山市)	1隊(6名)が参加																													

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																		
	<p style="text-align: center;">活動記録</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>日</th> <th>研修名</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11</td> <td>28～29</td> <td>技能維持研修 (三重県津市)</td> <td>受講1名</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>19</td> <td>福井県広域災害医療救急 医療情報システム(EMIS) 研修会 (坂井市)</td> <td>タスク1名派遣</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>18～19</td> <td>技能維持研修 (石川県内灘町)</td> <td>受講3名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>随時</td> <td></td> <td>(2ヵ月に1回程度の資機材 チェック等)</td> </tr> </tbody> </table>	月	日	研修名	参加者	11	28～29	技能維持研修 (三重県津市)	受講1名	12	19	福井県広域災害医療救急 医療情報システム(EMIS) 研修会 (坂井市)	タスク1名派遣	1	18～19	技能維持研修 (石川県内灘町)	受講3名		随時		(2ヵ月に1回程度の資機材 チェック等)																	
月	日	研修名	参加者																																			
11	28～29	技能維持研修 (三重県津市)	受講1名																																			
12	19	福井県広域災害医療救急 医療情報システム(EMIS) 研修会 (坂井市)	タスク1名派遣																																			
1	18～19	技能維持研修 (石川県内灘町)	受講3名																																			
	随時		(2ヵ月に1回程度の資機材 チェック等)																																			
<p>⑥ 周産期医療 地域周産期母子医療センターとして、通常分娩等の他、ハイリスク分娩等高度な周産期医療を提供する。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">産科医療</td> <td>外来延患者数</td> <td>5,481人</td> <td>6,767人</td> <td>10,419人</td> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>2,522人</td> <td>3,091人</td> <td>4,407人</td> </tr> <tr> <td>外来・入院収益</td> <td>128,460千円</td> <td>170,968千円</td> <td>296,172千円</td> </tr> <tr> <td>正常分娩</td> <td>81件</td> <td>79件</td> <td>114件</td> </tr> <tr> <td>異常分娩</td> <td>39件</td> <td>69件</td> <td>131件</td> </tr> <tr> <td>帝王切開</td> <td>27件</td> <td>38件</td> <td>54件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>147件</td> <td>186件</td> <td>299件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※異常分娩とは出血量が500ml以上の分娩を指す。</p>			平成29年度	平成30年度	令和元年度	産科医療	外来延患者数	5,481人	6,767人	10,419人	入院延患者数	2,522人	3,091人	4,407人	外来・入院収益	128,460千円	170,968千円	296,172千円	正常分娩	81件	79件	114件	異常分娩	39件	69件	131件	帝王切開	27件	38件	54件	計	147件	186件	299件	<p>地方の医療機関では産科医師不足が深刻化する中、福井大学との協力体制により、平成30年4月より産科医師3名、平成31年4月からは4名の医師を確保している。 平成31年1月より、近隣の産科クリニックが分娩業務を休止。当院での受入体制を強化するため、産婦人科外来の拡張工事施行や、産科医師、助産師の増員をはかり、地域の妊産婦が安心して分娩できる医療体制の維持に努め、分娩件数は対前年比1.6倍。収入は1.7倍。</p>	○	◎
		平成29年度	平成30年度	令和元年度																																		
産科医療	外来延患者数	5,481人	6,767人	10,419人																																		
	入院延患者数	2,522人	3,091人	4,407人																																		
	外来・入院収益	128,460千円	170,968千円	296,172千円																																		
	正常分娩	81件	79件	114件																																		
	異常分娩	39件	69件	131件																																		
	帝王切開	27件	38件	54件																																		
	計	147件	186件	299件																																		
<p>⑦ 小児医療 一般小児疾患に広く対応する他、特に小児療育施設において発達障害等の治療・療育に注力する。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">小児医療</td> <td>外来延患者数</td> <td>13,966人</td> <td>14,180人</td> <td>13,521人</td> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>1,593人</td> <td>2,031人</td> <td>2,577人</td> </tr> <tr> <td>外来・入院収益</td> <td>152,547千円</td> <td>179,486千円</td> <td>187,950千円</td> </tr> <tr> <td>小児療育数</td> <td>1,802人</td> <td>2,002人</td> <td>1,892人</td> </tr> </tbody> </table>			平成29年度	平成30年度	令和元年度	小児医療	外来延患者数	13,966人	14,180人	13,521人	入院延患者数	1,593人	2,031人	2,577人	外来・入院収益	152,547千円	179,486千円	187,950千円	小児療育数	1,802人	2,002人	1,892人	<p>地方の医療機関では小児科医師不足が深刻化する中、小児科医師4名を維持しながら地域医療を担っている。 地元の医師会と連携し、休日の小児救急当番医を担当しているほか、嶺南地域の小児療育医療に取り組み、発達障害等の治療、リハビリを担っている。</p>	○	○												
		平成29年度	平成30年度	令和元年度																																		
小児医療	外来延患者数	13,966人	14,180人	13,521人																																		
	入院延患者数	1,593人	2,031人	2,577人																																		
	外来・入院収益	152,547千円	179,486千円	187,950千円																																		
	小児療育数	1,802人	2,002人	1,892人																																		

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																																																
<p>⑧ 5疾病への対応 がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病については、質の高い医療を提供し、極めて高度で特殊な疾患はより高次の病院へ円滑に紹介する。 精神医療については、認知症への対応を強化する。</p>	<p>高次病院への紹介数 (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="439 193 1270 312"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福井大学医学部付属病院</td> <td>425</td> <td>397</td> <td>366</td> </tr> <tr> <td>京都大学医学部附属病院</td> <td>161</td> <td>163</td> <td>156</td> </tr> </tbody> </table> <p>精神科リエゾンチーム活動実績</p> <table border="1" data-bbox="439 387 1270 507"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>67人</td> <td>53人</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>延回診数</td> <td>206回</td> <td>245件</td> <td>189件</td> </tr> </tbody> </table> <p>対象疾患別人数 (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="439 582 1270 975"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>うつ病</td> <td>14</td> <td>7</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>せん妄</td> <td>19</td> <td>24</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>認知症</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>統合失調症</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>神経症</td> <td>13</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>自殺企図</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>睡眠障害</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>非定型精神病</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>パニック障害</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		平成29年度	平成30年度	令和元年度	福井大学医学部付属病院	425	397	366	京都大学医学部附属病院	161	163	156		平成29年度	平成30年度	令和元年度	患者数	67人	53人	31人	延回診数	206回	245件	189件		平成29年度	平成30年度	令和元年度	うつ病	14	7	3	せん妄	19	24	16	認知症	14	14	11	統合失調症	12	4	1	神経症	13	6	2	自殺企図	2	1	0	睡眠障害	4	5	3	非定型精神病	1	0	0	パニック障害	1	0	0	<p>高度で特殊な疾患はより高次の病院へ紹介している。 精神医療については、デイケア等の利用を考慮し入院患者の早期退院、社会復帰を目指している。 平成29年度から、精神科医師、精神科認定看護師、臨床心理士等による精神科リエゾンチームが、一般病棟入院中の「せん妄」「抑うつ」「認知症」「その他精神疾患を有する患者」等を対象として、入院中から退院後について「診療実施計画書」「治療計画書」を立て、チームで終了時指導、又は退院時指導を行い、病診連携を図っている。 令和元年度は新規入院患者数の減少に伴い、対象となる患者も減少している。</p>	△	△
	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																	
福井大学医学部付属病院	425	397	366																																																																	
京都大学医学部附属病院	161	163	156																																																																	
	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																	
患者数	67人	53人	31人																																																																	
延回診数	206回	245件	189件																																																																	
	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																	
うつ病	14	7	3																																																																	
せん妄	19	24	16																																																																	
認知症	14	14	11																																																																	
統合失調症	12	4	1																																																																	
神経症	13	6	2																																																																	
自殺企図	2	1	0																																																																	
睡眠障害	4	5	3																																																																	
非定型精神病	1	0	0																																																																	
パニック障害	1	0	0																																																																	
<p>⑨ 感染症への対応 結核病床、感染症病床を維持し、一般的な感染症の他、新型インフルエンザ等の新型ウィルス疾患にも対応する。</p>	<p>(単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="439 1046 1270 1166"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>結核病床入院延患者数</td> <td>164</td> <td>152</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>感染症病床入院延患者数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>		平成29年度	平成30年度	令和元年度	結核病床入院延患者数	164	152	30	感染症病床入院延患者数	0	0	3	<p>結核病床の利用率は低いが、嶺南地域の結核医療を担っている。</p>	○	○																																																				
	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																	
結核病床入院延患者数	164	152	30																																																																	
感染症病床入院延患者数	0	0	3																																																																	

役割と計画	実績				進捗の判断	自己評価	委員会評価
⑩ 健診業務 健診体制の整備をはかり、 病気の予防、早期発見に努 める。	(単位：件)				①平成29年度より協会けんぽの枠を増加し受け入れ体制を強化。平成30年度は体制維持により、協会けんぽの件数は前年度比1.3倍となったが、内視鏡等検査枠の制限により、令和元年度は減少した。 ②減少傾向にある2日ドック、PET健診の受診患者を確保するため、地域の企業訪問等を実施した。PET健診については、公立高島病院との契約に至り、令和元年度より高島市からの患者受入を行っている。	×	×
	1日ドック	平成29年度 687	平成30年度 674	令和元年度 694			
	2日ドック	33	40	38			
	PET健診	17	10	14			
	脳ドック	73	95	69			
	1日ドック+脳ドック	52	57	51			
	2日ドック+脳ドック	17	10	12			
	1日ドック+PET	0	0	0			
	2日ドック+PET	0	0	0			
	特定健診	62	73	65			
	協会けんぽ	394	502	400			
	一般健康診断	160	200	206			
	市町村個別検診	61	57	35			
	計	1,556	1,718	1,584			

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																																			
<p>⑪ 研修機能 職員教育に尽力し、職員の資質向上に努める。</p>	<p>①研修環境整備として医師、看護師向け各種医療用シミュレーターを平成22年度に購入し利用している。 ②TV会議システムを導入し、福井大学病院、福井県立病院など福井県内の7病院を回線で繋ぎ、双方向通信により他病院との会議・勉強会開催や講演会等の受講が当院に居ながら可能となっている。 ③研修医は6名となった。 ④医師の国内研修制度を整備し、研修を推奨している。 ⑤認定看護管理者および認定看護師資格取得のため、継続して資格取得研修に参加している。</p> <p style="text-align: right;">(単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="439 504 1270 975"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">学会出席</td> <td>医師</td> <td>242</td> <td>210</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>99</td> <td>136</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>医療技術員</td> <td>179</td> <td>128</td> <td>127</td> </tr> <tr> <td>事務他</td> <td>61</td> <td>68</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>581</td> <td>542</td> <td>555</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">臨床研修医</td> <td>病院単独</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>たすきがけ医科</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>” 歯科</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>嶺南医療振興財団奨学生</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>救急救命士研修</td> <td>13</td> <td>24</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table>			平成29年度	平成30年度	令和元年度	学会出席	医師	242	210	200	看護師	99	136	200	医療技術員	179	128	127	事務他	61	68	28	計	581	542	555	臨床研修医	病院単独	3	4	6	たすきがけ医科	2	0	0	” 歯科	0	0	0	計	5	4	6	嶺南医療振興財団奨学生	6	4	5	救急救命士研修	13	24	21	<p>①臨床研修指定病院として、指導医を確保し地域医療に貢献できる医師の育成を図った。 ②地域性の問題を解消し、医療知識向上が図れるよう、医療職を対象とした京大連携わかさセミナーを定期開催している。 ③今後も、研修医の指導を充実させ、研修医の確保・定着を図るとともに、嶺南医療振興財団奨学生医師を確保していく。 ④認定看護管理者教育課程ファーストレベル、セカンドレベルに各2名が受講し修了している。 ⑤10分野11名の認定看護師が、講師として出前講座や研修会に延べ36回近隣の医療機関に出向き、地域医療および看護の発展に寄与している。</p>	○	○
		平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																			
学会出席	医師	242	210	200																																																			
	看護師	99	136	200																																																			
	医療技術員	179	128	127																																																			
	事務他	61	68	28																																																			
	計	581	542	555																																																			
臨床研修医	病院単独	3	4	6																																																			
	たすきがけ医科	2	0	0																																																			
	” 歯科	0	0	0																																																			
	計	5	4	6																																																			
嶺南医療振興財団奨学生	6	4	5																																																				
救急救命士研修	13	24	21																																																				
<p>⑫ 医療従事者の養成・確保 看護師の養成・確保。</p>	<p style="text-align: right;">(単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="439 1050 1270 1326"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">看護師</td> <td>新採用</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>退職</td> <td>11</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>△1</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">看護学生</td> <td>入学生</td> <td>27</td> <td>30</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>卒業生</td> <td>25</td> <td>28</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>小浜病院組合就職者</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>			平成29年度	平成30年度	令和元年度	看護師	新採用	10	18	18	退職	11	13	13	増減	△1	5	5	看護学生	入学生	27	30	33	卒業生	25	28	24	小浜病院組合就職者	12	8	6	<p>①公立若狭高等看護学院での看護師養成において、当地域で従事する優れた看護師を育成するため、実習病院施設として、継続的な支援・協力を行っている。 ②看護師確保については、7:1の看護体制を維持するため人員確保に努力をしている。引き続き、公立若狭高等看護学院卒業生の確保をするとともに、他の看護学校・看護大学の卒業生や潜在看護師確保を図っていく。</p>	○	○																				
		平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																			
看護師	新採用	10	18	18																																																			
	退職	11	13	13																																																			
	増減	△1	5	5																																																			
看護学生	入学生	27	30	33																																																			
	卒業生	25	28	24																																																			
	小浜病院組合就職者	12	8	6																																																			

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																												
⑬ 地域包括ケアシステム 地域の医療機関および介護施設等との連携を推進する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>4,552人</td> <td>4,816人</td> <td>5,351人</td> </tr> <tr> <td>逆紹介患者数</td> <td>3,614人</td> <td>4,221人</td> <td>4,061人</td> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>29.1%</td> <td>29.7%</td> <td>31.1%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>22.1%</td> <td>38.4%</td> <td>36.0%</td> </tr> </tbody> </table>		平成29年度	平成30年度	令和元年度	紹介患者数	4,552人	4,816人	5,351人	逆紹介患者数	3,614人	4,221人	4,061人	紹介率	29.1%	29.7%	31.1%	逆紹介率	22.1%	38.4%	36.0%	①地域の医療機関や介護施設との連携を図るとともに、連絡・協議を行う体制作りに取り組んでいる。 ②紹介率40%、逆紹介率30%を目標としており、逆紹介率は伸びている。高額医療機器や一般病床の共同利用も協議していきたい。	○	○								
	平成29年度	平成30年度	令和元年度																													
紹介患者数	4,552人	4,816人	5,351人																													
逆紹介患者数	3,614人	4,221人	4,061人																													
紹介率	29.1%	29.7%	31.1%																													
逆紹介率	22.1%	38.4%	36.0%																													
⑭ 在宅医療 訪問看護・訪問診療の開始、訪問看護ステーションの設置。		訪問看護・訪問診療・訪問看護ステーション開設のための専任医師・看護師が確保できない状況が続いているが、実施に向けての研修参加等の研究を行っている。専任者確保までは、当院の役割である、救急医療・急性期医療の充実を図っていく。	×	×																												
⑮ 地域連携クリティカルパス 福井脳卒中連携協議会に参加し、パスを利用するの県内病院・診療所と相互の紹介・逆紹介を行っている。	脳卒中連携パス実施状況 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泉ヶ丘病院</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>福井総合病院</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>嶋田病院</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>林病院</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>福井厚生病院</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>		平成29年度	平成30年度	令和元年度	泉ヶ丘病院	8	10	12	福井総合病院	3	1	0	嶋田病院	1	1	2	林病院	1	0	0	福井厚生病院	0	0	1	計	13	12	15	福井脳卒中連携協議会に参加して、県内病院・診療所との紹介等を行っている。今後は、がん地域連携クリティカルパス等の利用向上も検討したい。	△	△
	平成29年度	平成30年度	令和元年度																													
泉ヶ丘病院	8	10	12																													
福井総合病院	3	1	0																													
嶋田病院	1	1	2																													
林病院	1	0	0																													
福井厚生病院	0	0	1																													
計	13	12	15																													
⑯ 地域貢献 安心して子供を産み育てられるよう小児・周産期医療を維持・強化する。	(4月1日付 単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児科医</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>産婦人科医</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>		平成29年度	平成30年度	令和元年度	小児科医	3	3	4	産婦人科医	2	3	4	令和元年度は、小児科医4名・産婦人科医4名の診療体制に、各1名増員となっている。	◎	◎																
	平成29年度	平成30年度	令和元年度																													
小児科医	3	3	4																													
産婦人科医	2	3	4																													

経費削減・抑制対策	実 績				進捗の判断	自己評価	委員会評価																																														
<p>① 給与費の抑制</p> <p>人件費に見合う収益を見込める職種以外は基本増員しない。 業務の見直しと効率化により超過勤務手当を削減する。</p>	<p>(職員数は4月1日付・カッコ内は非常勤職員数)</p> <table border="1" data-bbox="439 193 1270 624"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">職員数(人)</td> <td>医 師</td> <td>46 (13)</td> <td>45 (10)</td> <td>45 (12)</td> </tr> <tr> <td>看 護 師</td> <td>245 (65)</td> <td>255 (59)</td> <td>256 (50)</td> </tr> <tr> <td>医 療 技 術 員</td> <td>82 (7)</td> <td>82 (8)</td> <td>83 (6)</td> </tr> <tr> <td>事 務 ・ 他</td> <td>100 (55)</td> <td>99 (51)</td> <td>96 (49)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>473 (140)</td> <td>481 (128)</td> <td>480 (117)</td> </tr> <tr> <td>医 業 収 益</td> <td>6,694,909千円</td> <td>6,950,082千円</td> <td>6,959,772千円</td> </tr> <tr> <td>給 与 費</td> <td>3,761,523千円</td> <td>3,756,749千円</td> <td>3,798,785千円</td> </tr> <tr> <td>対 医 業 収 益 比 率</td> <td>56.2%</td> <td>54.1%</td> <td>54.6%</td> </tr> <tr> <td>超 過 勤 務 手 当</td> <td>206,802千円</td> <td>212,475千円</td> <td>213,232千円</td> </tr> <tr> <td>対 医 業 収 益 比 率</td> <td>3.1%</td> <td>3.1%</td> <td>3.1%</td> </tr> </tbody> </table>						平成29年度	平成30年度	令和元年度	職員数(人)	医 師	46 (13)	45 (10)	45 (12)	看 護 師	245 (65)	255 (59)	256 (50)	医 療 技 術 員	82 (7)	82 (8)	83 (6)	事 務 ・ 他	100 (55)	99 (51)	96 (49)	計	473 (140)	481 (128)	480 (117)	医 業 収 益	6,694,909千円	6,950,082千円	6,959,772千円	給 与 費	3,761,523千円	3,756,749千円	3,798,785千円	対 医 業 収 益 比 率	56.2%	54.1%	54.6%	超 過 勤 務 手 当	206,802千円	212,475千円	213,232千円	対 医 業 収 益 比 率	3.1%	3.1%	3.1%	<p>平成29年度から、正職員の定年退職者を希望により1年毎(3年間)契約での再任用を実施している。職種は、看護師・看護補助員等となっている。正職員数は微減、非常勤職員数は減少している。</p> <p>給与費は、正職員の入退職や職種での増員により看護師給・医師給が増額している。対医業収益比率は、給与費増が医業収益増を上回ったため上昇している。</p> <p>超過勤務手当は、医療技術員・労務員は増額となったが、他職種の減額があり微増となっている。対医業収益比率は近年と同値となっている。</p>	△	△
		平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																	
職員数(人)	医 師	46 (13)	45 (10)	45 (12)																																																	
	看 護 師	245 (65)	255 (59)	256 (50)																																																	
	医 療 技 術 員	82 (7)	82 (8)	83 (6)																																																	
	事 務 ・ 他	100 (55)	99 (51)	96 (49)																																																	
	計	473 (140)	481 (128)	480 (117)																																																	
医 業 収 益	6,694,909千円	6,950,082千円	6,959,772千円																																																		
給 与 費	3,761,523千円	3,756,749千円	3,798,785千円																																																		
対 医 業 収 益 比 率	56.2%	54.1%	54.6%																																																		
超 過 勤 務 手 当	206,802千円	212,475千円	213,232千円																																																		
対 医 業 収 益 比 率	3.1%	3.1%	3.1%																																																		
<p>② 経費の削減</p> <p>薬品費は、値引き交渉を強化する。 材料費は、「診療材料検討委員会」の組織と権限を強化し、材料の適正使用と削減に努める。 経費は、医療機器等の保守契約の見直し、委託費・光熱水費の削減を図る。</p>	<table border="1" data-bbox="439 699 1270 1010"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬 品 費</td> <td></td> <td>711,765千円</td> <td>824,738千円</td> <td>807,587千円</td> </tr> <tr> <td>対 医 業 収 益 比 率</td> <td></td> <td>10.6%</td> <td>11.9%</td> <td>11.6%</td> </tr> <tr> <td>診 療 材 料 費</td> <td></td> <td>420,209千円</td> <td>481,119千円</td> <td>504,294千円</td> </tr> <tr> <td>対 医 業 収 益 比 率</td> <td></td> <td>6.3%</td> <td>6.9%</td> <td>7.2%</td> </tr> <tr> <td>経 費</td> <td></td> <td>815,353千円</td> <td>846,363千円</td> <td>887,134千円</td> </tr> <tr> <td>対 医 業 収 益 比 率</td> <td></td> <td>12.2%</td> <td>12.2%</td> <td>12.7%</td> </tr> <tr> <td>う ち 委 託 費</td> <td></td> <td>430,322千円</td> <td>437,795千円</td> <td>459,127千円</td> </tr> </tbody> </table>						平成29年度	平成30年度	令和元年度	薬 品 費		711,765千円	824,738千円	807,587千円	対 医 業 収 益 比 率		10.6%	11.9%	11.6%	診 療 材 料 費		420,209千円	481,119千円	504,294千円	対 医 業 収 益 比 率		6.3%	6.9%	7.2%	経 費		815,353千円	846,363千円	887,134千円	対 医 業 収 益 比 率		12.2%	12.2%	12.7%	う ち 委 託 費		430,322千円	437,795千円	459,127千円	<p>①薬品費は、入院延患者数の減少もあり減額となり、対医業収益比率は低下しているが、化学療法治療等の高額医薬品の使用額は増加している。高額品を含む医薬品値引き交渉による購入額抑制、加えて後発医薬品使用による購入額抑制を行っている。</p> <p>②診療材料費は、SPDによる在庫管理、定数管理強化、安価な同等品への移行等を継続しているが、循環器検査手術に伴う使用材料、医療安全強化によるディスプレイ製品材料増加等により増額となり、対医業収益比率も上昇している。</p> <p>③経費は、建物・医療機器等の修繕費、医療廃棄物量増加、新規医療機器等保守、他病院医師派遣委託、機器改元対応等による委託費、並びに未収診療費引当による貸倒引当金等により増額となった。対医業収益比率は、経費増が医業収益増を上回ったため上昇している。</p>	△	△						
		平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																	
薬 品 費		711,765千円	824,738千円	807,587千円																																																	
対 医 業 収 益 比 率		10.6%	11.9%	11.6%																																																	
診 療 材 料 費		420,209千円	481,119千円	504,294千円																																																	
対 医 業 収 益 比 率		6.3%	6.9%	7.2%																																																	
経 費		815,353千円	846,363千円	887,134千円																																																	
対 医 業 収 益 比 率		12.2%	12.2%	12.7%																																																	
う ち 委 託 費		430,322千円	437,795千円	459,127千円																																																	

収入増加・確保対策	実 績				進捗の判断	自己評価	委員会評価																																												
① 診療報酬の査定、請求漏れを減少させる。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>査定額 国保</td> <td>△11,751千円</td> <td>△12,653千円</td> <td>△9,073千円</td> </tr> <tr> <td>査定額 社保</td> <td>△4,847千円</td> <td>△4,607千円</td> <td>△6,434千円</td> </tr> <tr> <td>査定額 合計</td> <td>△16,598千円</td> <td>△17,260千円</td> <td>△15,507千円</td> </tr> <tr> <td>保険請求額</td> <td>5,518,818千円</td> <td>5,766,850千円</td> <td>5,716,444千円</td> </tr> <tr> <td>査定率</td> <td>△0.30%</td> <td>△0.30%</td> <td>△0.27%</td> </tr> </tbody> </table>					平成29年度	平成30年度	令和元年度	査定額 国保	△11,751千円	△12,653千円	△9,073千円	査定額 社保	△4,847千円	△4,607千円	△6,434千円	査定額 合計	△16,598千円	△17,260千円	△15,507千円	保険請求額	5,518,818千円	5,766,850千円	5,716,444千円	査定率	△0.30%	△0.30%	△0.27%	<p>「レセプト博士」というシステムによるレセプトチェックを行い、適切な病名や検査の必要性については記載を行っている。査定率は減少しているが、社保の査定が増えている傾向がある。減点された内容については、事務だけでなく、医師等に周知、情報共有し、適正な保険請求の体制強化に努めている。</p>	○	○																				
	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																
査定額 国保	△11,751千円	△12,653千円	△9,073千円																																																
査定額 社保	△4,847千円	△4,607千円	△6,434千円																																																
査定額 合計	△16,598千円	△17,260千円	△15,507千円																																																
保険請求額	5,518,818千円	5,766,850千円	5,716,444千円																																																
査定率	△0.30%	△0.30%	△0.27%																																																
② 人間ドック等の健診収益増加を図る。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>1,556件</td> <td>1,718件</td> <td>1,584件</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>58,051千円</td> <td>59,241千円</td> <td>57,845千円</td> </tr> </tbody> </table>					平成29年度	平成30年度	令和元年度	件数	1,556件	1,718件	1,584件	金額	58,051千円	59,241千円	57,845千円	<p>平成29年度より協会けんぽの枠を増加したことにより、30年度は件数が増加したが、令和元年度は内視鏡等の検査枠数の制限により、受診者数が減少した。</p>	×	×																																
	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																
件数	1,556件	1,718件	1,584件																																																
金額	58,051千円	59,241千円	57,845千円																																																
③ 病棟稼働率増による入院収益確保。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救命救急病棟</td> <td>62.5%</td> <td>58.9%</td> <td>56.9%</td> </tr> <tr> <td>一般病棟</td> <td>90.2%</td> <td>79.8%</td> <td>77.1%</td> </tr> <tr> <td>地域包括ケア病棟</td> <td>91.3%</td> <td>76.3%</td> <td>72.2%</td> </tr> <tr> <td>療養病棟</td> <td>73.4%</td> <td>91.6%</td> <td>81.4%</td> </tr> <tr> <td>（うち西館3階）</td> <td>(90.0%)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>（うち西館4階）</td> <td>(56.8%)</td> <td>(91.6%)</td> <td>(81.4%)</td> </tr> <tr> <td>精神病棟</td> <td>81.2%</td> <td>80.7%</td> <td>80.9%</td> </tr> <tr> <td>（うち東館2階）</td> <td>(87.4%)</td> <td>(82.0%)</td> <td>(82.6%)</td> </tr> <tr> <td>（うち東館3階）</td> <td>(75.0%)</td> <td>(79.3%)</td> <td>(79.2%)</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>83.7%</td> <td>79.0%</td> <td>77.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成30年度より療養病棟は再編により西館4階のみになる。</p>					平成29年度	平成30年度	令和元年度	救命救急病棟	62.5%	58.9%	56.9%	一般病棟	90.2%	79.8%	77.1%	地域包括ケア病棟	91.3%	76.3%	72.2%	療養病棟	73.4%	91.6%	81.4%	（うち西館3階）	(90.0%)	—	—	（うち西館4階）	(56.8%)	(91.6%)	(81.4%)	精神病棟	81.2%	80.7%	80.9%	（うち東館2階）	(87.4%)	(82.0%)	(82.6%)	（うち東館3階）	(75.0%)	(79.3%)	(79.2%)	総計	83.7%	79.0%	77.3%	<p>平成29年度（平成30年3月）に療養病棟100床を50床に転換し、一般への入院患者受入れ体制を強化したが、平成30年度は、内科医師数の減少により、入院患者数が減少し、一般病棟、地域包括ケア病棟、いずれも稼働率が下がっている。令和元年度は、産婦人科、小児科、泌尿器科、耳鼻いんこう科の入院患者数は増加したが、内科、外科の入院患者数が減少したことにより、全体の稼働率は下がる結果となった。</p>	×	×
	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																
救命救急病棟	62.5%	58.9%	56.9%																																																
一般病棟	90.2%	79.8%	77.1%																																																
地域包括ケア病棟	91.3%	76.3%	72.2%																																																
療養病棟	73.4%	91.6%	81.4%																																																
（うち西館3階）	(90.0%)	—	—																																																
（うち西館4階）	(56.8%)	(91.6%)	(81.4%)																																																
精神病棟	81.2%	80.7%	80.9%																																																
（うち東館2階）	(87.4%)	(82.0%)	(82.6%)																																																
（うち東館3階）	(75.0%)	(79.3%)	(79.2%)																																																
総計	83.7%	79.0%	77.3%																																																

収入増加・確保対策	実 績				進捗の判断	自己評価	委員会評価																				
④ 紹介入院患者を確保するため、開業医等との連携を強化する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>4,552人</td> <td>4,816人</td> <td>5,351人</td> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>29.1%</td> <td>29.7%</td> <td>31.1%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介患者数</td> <td>3,614人</td> <td>4,221人</td> <td>4,061人</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>22.1%</td> <td>38.4%</td> <td>36.0%</td> </tr> </tbody> </table>					平成29年度	平成30年度	令和元年度	紹介患者数	4,552人	4,816人	5,351人	紹介率	29.1%	29.7%	31.1%	逆紹介患者数	3,614人	4,221人	4,061人	逆紹介率	22.1%	38.4%	36.0%	<p>当院の診療体制・医師変更等がある度に、近隣医療機関（開業医含む）へお知らせをすることにより、スムーズな紹介・逆紹介が得られる。患者紹介を受入れ、当院での診察・検査・入院・手術等を実施し、軽快退院後には紹介元の医療機関へ逆紹介という一連の流れ、連携を確立させることより、患者の確保・収益確保を図る。</p>	○	○
		平成29年度	平成30年度	令和元年度																							
	紹介患者数	4,552人	4,816人	5,351人																							
	紹介率	29.1%	29.7%	31.1%																							
	逆紹介患者数	3,614人	4,221人	4,061人																							
	逆紹介率	22.1%	38.4%	36.0%																							
	医療機関別紹介患者数 (単位：件 上位10施設)																										
	平成29年度		平成30年度																								
	本馬医院	305	本馬医院	392																							
	小津外科医院	304	福井大学医学部附属病院	282																							
福井大学医学部附属病院	281	小津外科医院	277																								
名田庄診療所	246	若狭高浜病院	232																								
若狭高浜病院	220	名田庄診療所	219																								
まつき歯科医院	181	しんたにクリニック	207																								
千葉医院	180	上中診療所	192																								
しんたにクリニック	156	千葉医院	166																								
にしお内科クリニック	152	まつき歯科医院	159																								
上中診療所	150	にしお内科クリニック	155																								
令和元年度																											
本馬医院	418																										
小津外科医院	333																										
福井大学医学部附属病院	330																										
しんたにクリニック	270																										
若狭高浜病院	245																										
名田庄診療所	205																										
千葉医院	204																										
上中診療所	196																										
にしお内科クリニック	155																										
堀口医院	153																										

収入増加・確保対策	実 績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																																																																								
	<p>医療機関別逆紹介患者数 (単位：件 上位10施設)</p> <table border="1" data-bbox="439 229 1176 1088"> <thead> <tr> <th colspan="2">平成29年度</th> <th colspan="2">平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福井大学医学部附属病院</td> <td>425</td> <td>福井大学医学部附属病院</td> <td>397</td> </tr> <tr> <td>舞鶴共済病院</td> <td>241</td> <td>本馬医院</td> <td>262</td> </tr> <tr> <td>本馬医院</td> <td>190</td> <td>舞鶴共済病院</td> <td>178</td> </tr> <tr> <td>京都大学医学部附属病院</td> <td>161</td> <td>上中診療所</td> <td>176</td> </tr> <tr> <td>まつき歯科医院</td> <td>144</td> <td>千葉医院</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td>名田庄診療所</td> <td>128</td> <td>京都大学医学部附属病院</td> <td>163</td> </tr> <tr> <td>上中診療所</td> <td>119</td> <td>名田庄診療所</td> <td>151</td> </tr> <tr> <td>にしお内科クリニック</td> <td>102</td> <td>にしお内科クリニック</td> <td>148</td> </tr> <tr> <td>若狭高浜病院</td> <td>97</td> <td>まつき歯科医院</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>千葉医院</td> <td>95</td> <td>若狭高浜病院</td> <td>129</td> </tr> <tr> <th colspan="2">令和元年度</th> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>福井大学医学部附属病院</td> <td>366</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本馬医院</td> <td>289</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中山クリニック</td> <td>183</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>千葉医院</td> <td>174</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>京都大学医学部附属病院</td> <td>156</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上中診療所</td> <td>138</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小津外科医院</td> <td>136</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>若狭高浜病院</td> <td>133</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>まつき歯科医院</td> <td>132</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>しんたにクリニック</td> <td>128</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成29年度		平成30年度		福井大学医学部附属病院	425	福井大学医学部附属病院	397	舞鶴共済病院	241	本馬医院	262	本馬医院	190	舞鶴共済病院	178	京都大学医学部附属病院	161	上中診療所	176	まつき歯科医院	144	千葉医院	165	名田庄診療所	128	京都大学医学部附属病院	163	上中診療所	119	名田庄診療所	151	にしお内科クリニック	102	にしお内科クリニック	148	若狭高浜病院	97	まつき歯科医院	134	千葉医院	95	若狭高浜病院	129	令和元年度				福井大学医学部附属病院	366			本馬医院	289			中山クリニック	183			千葉医院	174			京都大学医学部附属病院	156			上中診療所	138			小津外科医院	136			若狭高浜病院	133			まつき歯科医院	132			しんたにクリニック	128					
平成29年度		平成30年度																																																																																										
福井大学医学部附属病院	425	福井大学医学部附属病院	397																																																																																									
舞鶴共済病院	241	本馬医院	262																																																																																									
本馬医院	190	舞鶴共済病院	178																																																																																									
京都大学医学部附属病院	161	上中診療所	176																																																																																									
まつき歯科医院	144	千葉医院	165																																																																																									
名田庄診療所	128	京都大学医学部附属病院	163																																																																																									
上中診療所	119	名田庄診療所	151																																																																																									
にしお内科クリニック	102	にしお内科クリニック	148																																																																																									
若狭高浜病院	97	まつき歯科医院	134																																																																																									
千葉医院	95	若狭高浜病院	129																																																																																									
令和元年度																																																																																												
福井大学医学部附属病院	366																																																																																											
本馬医院	289																																																																																											
中山クリニック	183																																																																																											
千葉医院	174																																																																																											
京都大学医学部附属病院	156																																																																																											
上中診療所	138																																																																																											
小津外科医院	136																																																																																											
若狭高浜病院	133																																																																																											
まつき歯科医院	132																																																																																											
しんたにクリニック	128																																																																																											

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 委員名簿

区 分	氏 名	所属団体・役職等
委員長	白 髪 昌 世	広島国際大学健康科学部医療経営学科名誉教授・客員教授
委 員	濱 詰 健 二	小浜信用金庫理事長
委 員	一 瀬 亨	小浜医師会会長
委 員	岡 正 人	小浜市民生部長
委 員	池 田 誠 子	小浜市連合婦人会会長

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 開催日

令和2年 9月18日（金） 午後7時より

杉田玄白記念公立小浜病院 9階会議室